

新春対談2021

PART 1

武雄の未来を担う若手リーダー
さらなる魅力の創造に向けて。

NEW LEADERS

2022年秋
九州新幹線
西九州ルート開業



武雄市商工会青年部
部長
久保良真

武雄青年会議所
2021年度
理事長
馬渡洋平



市長
小松 政

武雄商工会議所 青年部
会長
岩永明輝

2020を振り返って

あけましておめでとうございます。昨年を振り返ってみると、新型コロナウイルス感染症の影響で大変な1年となりました。市内青年団体のリーダーとして活動されている皆さんにはどのような影響がありましたか？

青年会議所では理事会や定例会などがすべてウェブ会議になりました。これまでは実際に集まって話し合っていた分、最初は戸惑いもありましたが、慣れるにつれウェブを活かした講演会を配信するなど、これまでになかった活動に挑戦することができました。

商工会青年部も、ほとんどのイベントや会議が中止に。平年では直接顔を合わせ意見を出し合う中で、部員の交流が生まれ、一丸となってイベントをつくりあげていましたが、今年はなかなか実施できませんでした。そんな中でも、10人未満の分散型交流会を開催するなどの工夫をし、実施したい事業を話し合いました。今後それらの事業が実施できるか不安ですが、市の事業に携わりながら、武雄市を盛り上げていきたいですね。

商工会議所青年部も同様に、会議はすべて中止となりました。やるべきことはありましたがコロナの影響で実施することができない事が多かったのです。

コロナ禍での変化

それぞれの団体の苦勞と工夫が伝わります。市としては、コロナ禍で経済が冷え込んでいたなか、一番大事にしたことは「スピード感をもって本当に困っている人を支援すること。感染症対策や行事の中止など大変ではありましたが、次の時代のヒントが見えてきました。市外や県外から観光客が来ないときに、地域で自立し、市民同士支えあいながら経済を回して「循環型社会」が重要になってくると思います。

市役所では、感染症対策のひとつとしてテレワークを実施しました。これまで無理だと思っていたこともできるきっかけになりましたが、みなさんはコロナをきっかけに何か変わったことはありませんか？

ウェブ会議が増えたことで、これまで会議に出席できなかった人々も出席できるようになりました。実際に集まるよりも参加しやすいのでウェブ会議には賛成です。

プライベートでは、出張がなくなった分、家族との時間が増えましたね。

会社の研修が多く、県外への出張も多かったのですが、ウェブでの研修になりました。その分、会社でのデスクワークが増え、会社の見えなかった部分も見えるようになりました。子どもたちの保育園や小学校の行事は分散や短縮での開催でしたが、家族と過ごす時間も増えるきっかけになったと思います。

私の仕事は建設業なので、現場や工場での作業が主で、テレワークやウェブ会議等はできませんでした。感染予防以外には特に影響を受けていないように感じます。

